

GPT Image 2.0 と Nano Banana 2 の比較：強み・弱み・用途別使い分け

作成者：Manus AI

作成日：2026年5月11日

結論

GPT Image 2.0 は「完成物として使えるデザイン」「文字を含む画像」「広告・資料・誌面・UI・インフォグラフィック」「自然な光と質感を重視するフォトリアル編集」で第一候補になります。OpenAI 公式ドキュメントは GPT Image 2 を高品質な画像生成・編集の最上位モデルと位置づけ、開発者向けガイドも、信頼性の高い文字描画、構造化ビジュアル、広告、UI モック、スライド、図表などを主要ユースケースとして示しています。[12](#)

一方で、Nano Banana 2 は「速度」「大量生成」「Gemini/Google Photos/Google Search 連携」「個人化」「複数参照画像」「長いプロンプトや空間構成」「アニメ・イラスト寄り表現」で有力です。Google 公式ドキュメントでは Nano Banana 2 を Gemini 3.1 Flash Image Preview、すなわち Gemini 3 Pro Image の高効率版として説明し、速度と大量開発者利用に最適化されているとしています。[3](#)

指定記事の示唆は重要です。アスキーの記事は、GPT Image 2.0 がデザイン表現では非常に強い一方、実写人物の一貫性や顔の再現では Nano Banana 系、とくに Nano Banana Pro に劣る場面があると指摘しています。顔の向きや表情が変わると、リファレンス画像の顔を維持できず、平均的な美人顔へ寄る傾向があるという評価です。[4](#)

アスキーの記事は、GPT Image 2.0 について「デザイン表現に強い一方、実写人物の一貫性や顔の再現では Nano Banana Pro に劣る場面もありました」と要約している。[4](#)

主要比較

評価軸	GPT Image 2.0	Nano Banana 2	実務上の判断
文字・タイポグラフィ	非常に強い。OpenAI 公式ガイドは、画像内の鮮明な文字、整ったレイアウト、強いコントラストを強調している。 2	Google 公式ドキュメントも高忠実度テキストレンダリングに触れるが、Nano Banana Pro の方がプロ資産制作向けという位置づけ。 3	文字が読めることが必須なら GPT Image 2.0 を優先。
デザイン・広告・誌面	広告、UI、資料、図表、インフォグラフィックに強い。指定記事でも雑誌見開きでは GPT Image 2.0 が洗練されると評価。 2 4	構造化情報や空間構成で強い場面はあるが、誌面デザインでは野暮ったくなるという指摘もある。 4	バナー、LP、スライド、資料画像は GPT Image 2.0。
フォトリアル編集	TechRadar は、光・影・反射・肌や質感の自然さで ChatGPT Images 2.0 が優勢と評価している。 5	見栄えは良いが、ややスタイライズされ、実写らしさよりも整った印象に寄る場合がある。 5	実写として自然に見せたい編集は GPT Image 2.0 が有利。
人物・顔の同一性	高解像度や整理された参照画像で改善するが、顔向き・表情変化で別人化しやすいという報告がある。 4	指定記事では人物一貫性で Nano Banana 系が優位。特に Nano Banana Pro の方が人物描写は精密とされる。 4	特定人物・キャラの継続運用は Nano Banana 系を優先し、必要なら Pro も検討。
速度・大量生成	OpenAI API ページ上の速度表示は Medium で、品質重視寄り。 1	Google 公式は速度と高ボリューム用途に最適化と説明。TechRadar も通常 Nano Banana 2 が高速と評価。 3 5	大量バリエーション作成は Nano Banana 2。
長い複雑プロンプト・空間構成	高い追従力を持つが、複雑条件では過度なシャープ化や品質低下を指摘するレビューもある。 6	Decrypt は、長いプロンプトで Nano Banana 2 がより一貫し、空間構成や構造化情報デザインで勝つ場面があると評価している。 6	長い条件指定や空間配置の検証では Nano Banana 2 も併用。

評価軸	GPT Image 2.0	Nano Banana 2	実務上の判断
Google 連携・個人化	ChatGPT 内での対話生成が強いが、Google Photos のような個人ライブラリ連携は Nano Banana 2 側が強い。	Google 公式ブログは、Google Photos と Personal Intelligence により、自分や家族、好みを反映した画像生成を少ないプロンプトで行えると説明している。 1	個人写真・生活文脈を使うなら Nano Banana 2 。
表現制限	指定記事では、実写調の水着や未成年に見える人物で拒否されやすいとされる。 4	Nano Banana も失敗はあるが、GPT Image 2.0 ほどではないという指摘がある。 4	ポリシー境界に近い表現では事前に失敗率を見込む。

強みと弱み

GPT Image 2.0 の強み

GPT Image 2.0 の最大の強みは、**商用・実務に近い完成度の画像を作りやすいこと**です。OpenAI のプロンプトガイドは、信頼性の高い文字描画、構造化されたビジュアル、広告生成、UI モック、科学・教育図解、スライドやチャートなどを具体的なユースケースとして示しており、これは単なる絵作りではなく、仕事でそのまま使う素材作成を意識した設計です。[2](#)

フォトリアル編集でも評価は高く、TechRadar の比較では、ポートレートの背景変更、シネマティック化、商品写真の実在感、季節変更といった実用的な編集で、ChatGPT Images 2.0 が光の振る舞い、素材の反射、顔の自然さにより注意を払っていると評価されています。[5](#)

GPT Image 2.0 の弱み

弱みは、**特定人物やキャラクターの同一性を、顔向き・表情・シーン変更をまたいで安定維持する用途**です。指定記事では、リファレンス画像を与えても本人らしさが保ちにくく、試行錯誤を重ねるほど別人化するケースが紹介されています。また、顔の向きや表情が変わると平均的な美人顔へ寄る傾向があると分析されています。[4](#)

もう一つの弱みは、**表現制限の厳しさ**です。特に実写調の水着や未成年に見える人物では、性的意図がない場合でも拒否されやすいとされます。これは安全性の観点では長所でもあります。ファッション、グラビア風ではない水着広告、学園設定の実写風キャラクターなどでは制作効率を下げる可能性があります。[4](#)

Nano Banana 2 の強み

Nano Banana 2 の強みは、**高速・大量生成と Google エコシステムとの結合**です。Google 公式ドキュメントは、Nano Banana 2 を Gemini 3.1 Flash Image Preview として、速度と大量開発者利用に最適化したモデルと説明しています。さらに、画像生成、画像編集、マルチターン編集、Google Search grounding、最大 14 枚の参照画像、1K・2K・4K 生成に対応すると説明されています。[3](#)

Google 公式ブログでは、Nano Banana 2 と Google Photos、Personal Intelligence を組み合わせ、手動アップロードや長いプロンプトなしで、自分や家族、好みを反映した画像生成を行えると説明されています。これは、個人写真アルバムや生活文脈を使った生成では大きな差別化要因です。[7](#)

Nano Banana 2 の弱み

Nano Banana 2 は高速で見栄えのよい出力を得やすい一方、**デザイン成果物としての洗練度や文字・誌面レイアウトでは GPT Image 2.0 に劣る場面**があります。指定記事では、雑誌見開きの作例で GPT Image 2.0 が洗練された雰囲気にとまとめたのに対し、Nano Banana は野暮ったい印象だったとされています。[4](#)

また、TechRadar の比較では、Nano Banana 2 は通常高速で十分高品質ながら、ChatGPT Images 2.0 の方が光、質感、顔の自然さに注意を払っており、生成物が「より本物らしく感じる」と結論づけています。[5](#)

用途別の使い分け提案

用途	第一候補	理由	実務上の補足
SNS 広告、LP ヒーロー、バナー	GPT Image 2.0	文字、構図、広告らしい完成度が強い。	文字は必ず引用符で指定し、フォント、配置、余白も明示する。
雑誌風見開き、 資料表紙、スライド画像	GPT Image 2.0	指定記事でもデザイン要素で優勢。OpenAI ガイドもスライド・図表を主要用途に挙げる。 24	生成後に細かい文字だけ DTP ツールで差し替えると安全。
商品写真の雰囲気改善	GPT Image 2.0	反射、影、素材感が自然になりやすいというレビューがある。 5	ブランドロゴや実商品の形状は参照画像を使い、保存すべき要素を明示する。
実在人物・社内キャラの連続カット	Nano Banana 2、 精度重視なら Nano Banana Pro も比較	GPT Image 2.0 は顔の同一性が崩れる場面がある。 4	同一人物案件では、同じ参照画像セットで両モデルを試し、採用前に表情差分を検証する。
大量のラフ案・A/B バリエーション	Nano Banana 2	速度と大量利用に最適化されている。 3	最終候補だけ GPT Image 2.0 で磨く二段構えが効率的。
Google Photos を使った個人化画像	Nano Banana 2	Google Photos 連携と Personal Intelligence が公式に説明されている。 7	個人情報・肖像の扱いには社内ルールを設ける。
アニメ・イラスト系キービジュアル	Nano Banana 2	第三者レビューではアニメ表現で Nano Banana 2 が強い場面がある。 6	ただし文字入りポスターにするなら GPT Image 2.0 も試す。
インフォグラフィック、教育図解、文字多めの図	GPT Image 2.0、 複雑空間構成なら Nano Banana 2 も併用	GPT Image 2.0 は文字密度と情報量に強い一方、Nano Banana 2 は構造化情報デザインで勝つ場面がある。 26	最終用途が印刷・プレゼンなら、生成画像を下書きにして人間が校正する。

用途	第一候補	理由	実務上の補足
表現制限に近いファッション・人物素材	Nano Banana 系を検討しつつ、ポリシー適合を確認	GPT Image 2.0 は実写水着や若年に見える人物で拒否されやすいとの報告がある。 4	安全・法務・プラットフォーム規約を優先し、年齢や文脈を明確にする。

推奨ワークフロー

最も堅い運用は、**「Nano Banana 2 で高速に広げ、GPT Image 2.0 で仕上げる」または「GPT Image 2.0 でデザインを決め、Nano Banana 2 で人物・参照一貫性を検証する」**という併用です。生成 AI 画像では、モデルごとの得意不得意がプロンプト、参照画像、解像度、安全判定、出力先の文脈で変わるため、片方を常に正解とみなすより、工程ごとに役割を分けた方が安定します。

特に広告・業務利用では、最終成果物に近い品質が必要なため、GPT Image 2.0 を最終レンダリング候補にしつつ、人物やキャラクターの同一性が重要な案件では Nano Banana 2 または Nano Banana Pro で比較検証するとよいでしょう。逆に、個人化画像、Google Photos 起点の思い出生成、大量バリエーション、素早い探索では Nano Banana 2 を起点にするのが合理的です。

References